



全国学力・学習状況調査結果報告「後期課程」

4月19日（火）に行われた全国学力・学習状況調査の主な結果についてお知らせいたします。これは毎年小学校第6学年と中学校第3学年（本校は6年生と9年生）を対象とする悉皆調査（令和2年度は中止）です。目的は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることであります。以下に、その結果を示しますので、伊豆市のリーフレットと併せてご覧ください。

教科に関する調査の結果



県・全国平均との比較

国語は、県・全国平均を大きく上回りました。数学は、平均をやや下回りましたが、理科は、平均を上回りました。しかし、結果は4月時点における学力・学習状況の一部分にすぎません。一人一人に目を移すと、本調査に取り組んだ生徒それぞれに成果と課題があります。結果に一喜一憂することなく、今後も生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上に努めていきたいと思ひます。

【本校と県・全国の平均正答率との比較表】

	県平均との比較	全国平均との比較
国語	◎	◎
数学	△	△
理科	○	◎

※平均を+5.0ポイント以上 ◎

平均を0～+4.9ポイント以上 ○

平均を0～-4.9ポイント △

平均を-5.0ポイント以下 ▲



国語

ほとんどの設問で全国・県の平均を上回ったのですが、特に良かったのは、漢字の読み書き、語句の意味、文章中に使われた表現技法の名称などの基礎的な知識や、スピーチに関わる適切な問いかけや話のよりよい進め方などでした。これは、普段から漢字の書き取りに真面目に取り組む姿勢の結果であるといえます。また、スピーチに関しては、国語の授業だけでなく、全校で取り組む1分間スピーチ、各集会での意見や感想発表を大切にする教育課程の中で培われたものであると考えられます。一方同じスピーチの設問で、話す内容の工夫が文末表現も含めて低い結果でした。学校評価においても「自分の考えを堂々と表現できる」という項目が低く、その改善に向けて学校全体で取り組んできましたが、関わる教育活動をさらに発展させたいと思ひます。

数学

県平均を大きく上回ったものは、「連立二元一次方程式を解くことができる」「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」「証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を理解している」でした。数量や図形などについての知識・理解が高いことがわかりました。また、県や全国平均を下回った問題があります。「自然数を素数の積で表すことができる」「一次関数の変化

の割合の意味を理解している」「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」です。これらは、選択式や短答式の問題で、数学的用語の意味や学習内容をもう一度確認することが必要です。選択式や短答式でも県平均を大きく上回った問題があったことから、むらなく学習していく必要があります。基礎基本の定着に力を入れ、求める場面をよく判断して的確に答えを導き出す力を育てていく授業を目指していきたいと思います。

理 科

全体的にはよくできていました。特に、エネルギーの分野では、県や全国平均を大きく上回っており、日頃から、実験、考察を頑張っている成果だと考えられます。生命と地球分野の「地層」や「気象」に関する問題については、県や全国平均から比べると低かったです。地学に関する内容については、スケールが大きく、イメージしにくい内容ですので、少しでもイメージしやすくなるように、実験・観察の活動を今まで以上に充実させたいと思います。それだけでなく、実験で見いだした事実を、現実の現象と結びつけて考える力を育成していきたいと思います。また、全てに関連することとして、後期課程からは、写真から読み取る力からレベルアップし、抽象図から読み取る力が必要になってきます。普段から図をかいてまとめたり、発表したりする活動を行なっていきたいと思います。

生徒質問紙に関する調査の結果



学校生活

自己有用感、規範意識についての質問が平均を大きく上回りました。「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で、高い数値でした。また、「人が困っているときには、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」で高い数値でした。今までの取り組みの成果がでていていると思います。今後も、異学年交流（縦割り活動）での友だちの良さを見つめるワークシートを用意し、掲示したり伝え合ったりすることで内容の共有をしていきます。他者から自分の良さを指摘されたり感謝されたりすることは、自分に新たな気づきをもたらし、自己肯定感の醸成に役立つものと考え、こうした活動を今後も意図的に取り入れていきたいと思います。

学 習

「学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、『当てはまる』『どちらかといえば、当てはまる』で 100%でした。しかし、「各教科で学んだ事を生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」では、『どちらかといえば、当てはまらない』の生徒もいるので、家庭学習時間も含め、自分に合った学習の方法を見つけることも大切であると考えます。また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」や「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」でも、県や全国平均を大きく上回りました。県平均を下回った数学もそうですが、各教科で子どもたちが毎日取り組む学習書や課題などについて、学習する内容について助言するなどしていきます。また面談などの場で個に応じた学習の助言をしていきたいと思います。

地域・家庭

地域とのつながりの度合いを問う設問「今住んでいる地域の行事に参加していますか」や「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」では、平均を上回りました。学校行事では、日頃より保護者の皆さまを始め、地域ぐるみで温かいご指導をいただいております。皆さまのご協力に改めて感謝しております。個人に関することでは、「朝食を毎日食べていますか」や「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」など、高い水準でした。規則正しい生活ができるからこそ、学校生活が意欲的に取り組める原動力になっていると思います。